

介護情報基盤

「外部インターフェース仕様書」

第 2.00 版

2025 年 7 月 1 日

変更履歴

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
1	1.00	新規作成	外部インターフェース仕様書 （初版）の作成	-	-	2025/4/1
2	2.00	詳細設計	詳細設計による変更	-	変更	2025/7/1

目次

1. はじめに.....	1
1.1 本書の目的.....	1
1.2 本書の構成.....	1
2. インタフェース概要	2
2.1 処理フロー.....	3
2.1.1 主治医意見書情報の連携.....	3
2.1.2 主治医意見書請求書情報の連携	5
3. インタフェース仕様	7
3.1 外部インタフェース一覧.....	7
3.2 外部インタフェースレイアウト.....	7
3.3 CSV ファイル仕様	7
4. 文字セット・文字コード・符号化形式.....	9
4.1 要求ファイルの文字セット・文字コード・符号化形式	9
4.2 結果ファイルの文字セット・文字コード・符号化形式	9
5. HPKI 電子署名について	10

5.1 電子署名の規格.....	10
5.1.1 電子署名の生成.....	10
5.1.2 電子署名のプロファイル仕様について.....	10
5.2 XAdES に関する規格	12
6. 障害時・異常時の対処	13
7. 連携要件と方式.....	14
7.1 ネットワーク経路	14
7.2 検証環境.....	14
8. WebAPI 仕様	16
8.1 API 共通仕様	16
8.2 呼出し手順.....	16
8.3 共通処理.....	16
8.4 使用上の制限	17

1. はじめに

1.1 本書の目的

本書は、介護情報基盤が医療機関等の文書作成システム、電子カルテシステムなど（以下、文書作成システム等と表す）と連携して行う業務を実現するためのインタフェース仕様を示す。

1.2 本書の構成

本書の構成を「表 1-1 本書の構成」に示す。

表 1-1 本書の構成

項番	資料名	概要
1	外部インタフェース仕様書（本書）	介護情報基盤とファイル連携するために必要な仕様、各機能で用いるインタフェースのファイル仕様を記載した資料
2	別紙 1_外部インタフェース一覧	本書で定義する外部インタフェースの一覧を記載した資料
3	別紙 2_外部インタフェースレイアウト	文書作成システム等が介護情報基盤と連携する際に用いるファイルのレイアウトについて記載した資料
4	別紙 3_業務コード一覧	文書作成システム等が介護情報基盤と連携する際に用いるインタフェースの業務コード一覧について記載した資料
5	別紙 4_業務コード仕様	文書作成システム等が介護情報基盤と連携する際に用いるインタフェースの業務コード仕様について記載した資料

2. インタフェース概要

文書作成システム等は、主治医意見書情報と主治医意見書請求書情報を介護情報基盤に連携する。HPKI 署名を行った場合には、介護情報基盤上で署名の検証を行う。文書作成システム等から連携された主治医意見書情報と主治医意見書請求書情報は介護情報基盤のデータベースへの登録が行われ、その登録結果が返却される。その後、介護情報基盤から、主治医意見書・主治医意見書請求書情報を介護保険システムに連携する。概要図を「図 2-1 インタフェース概要」に示す。

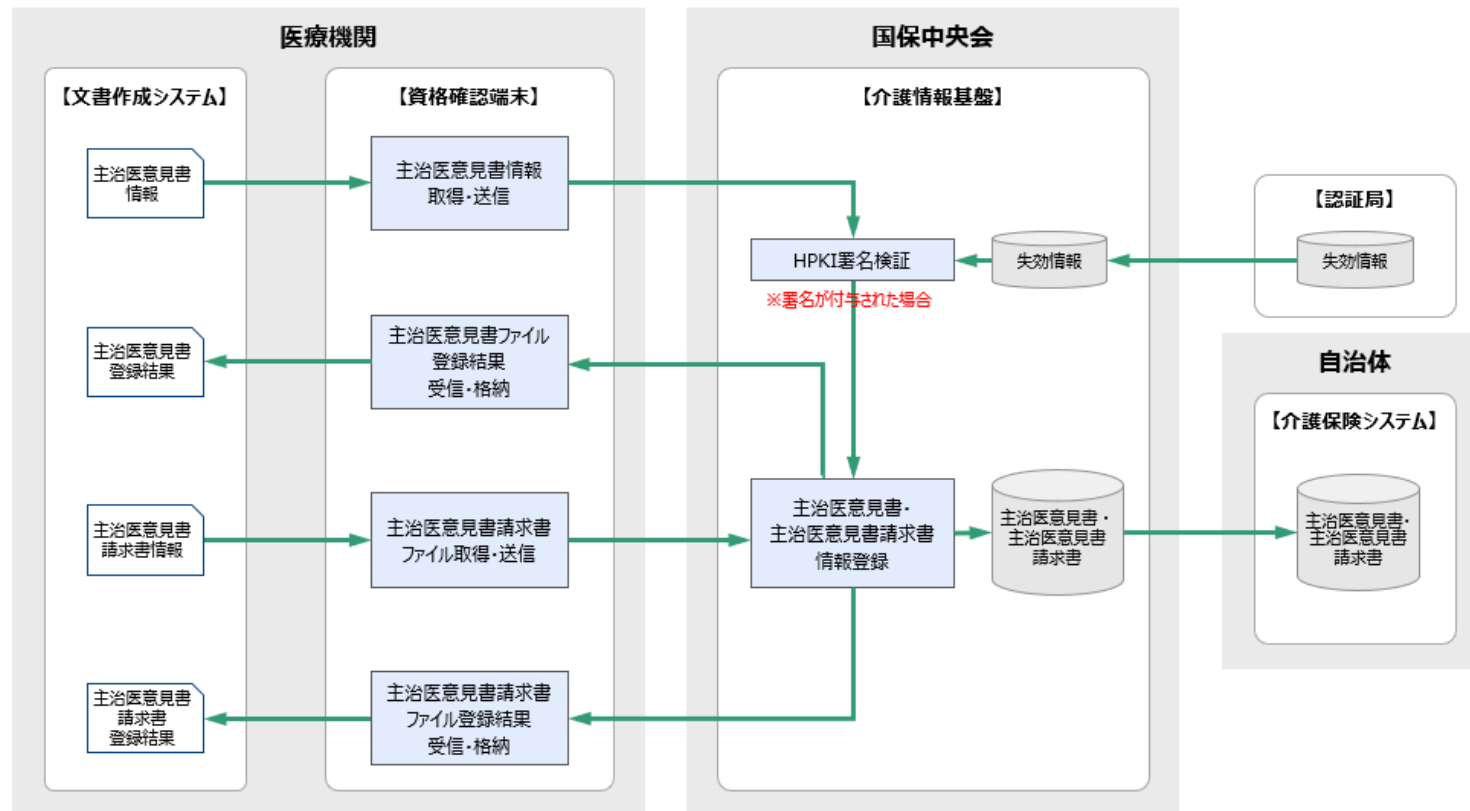


図 2-1 インタフェース概要

2.1 処理フロー

文書管理システム等が介護情報基盤にデータを連携する際の処理の流れを示す。なお、同一キー（証記載介護保険者番号、介護保険被保険者番号、作成依頼日）のデータは最後に登録したものが反映されるため、データ連携の順序について留意すること。

2.1.1 主治医意見書情報の連携

主治医意見書情報に関する処理の流れを「図 2-2 処理フロー（主治医意見書情報連携）」に示す。なお、本書は図中の赤枠で示す、文書作成システム等で作成する CSV ファイルおよび XML ファイルの仕様について示す。

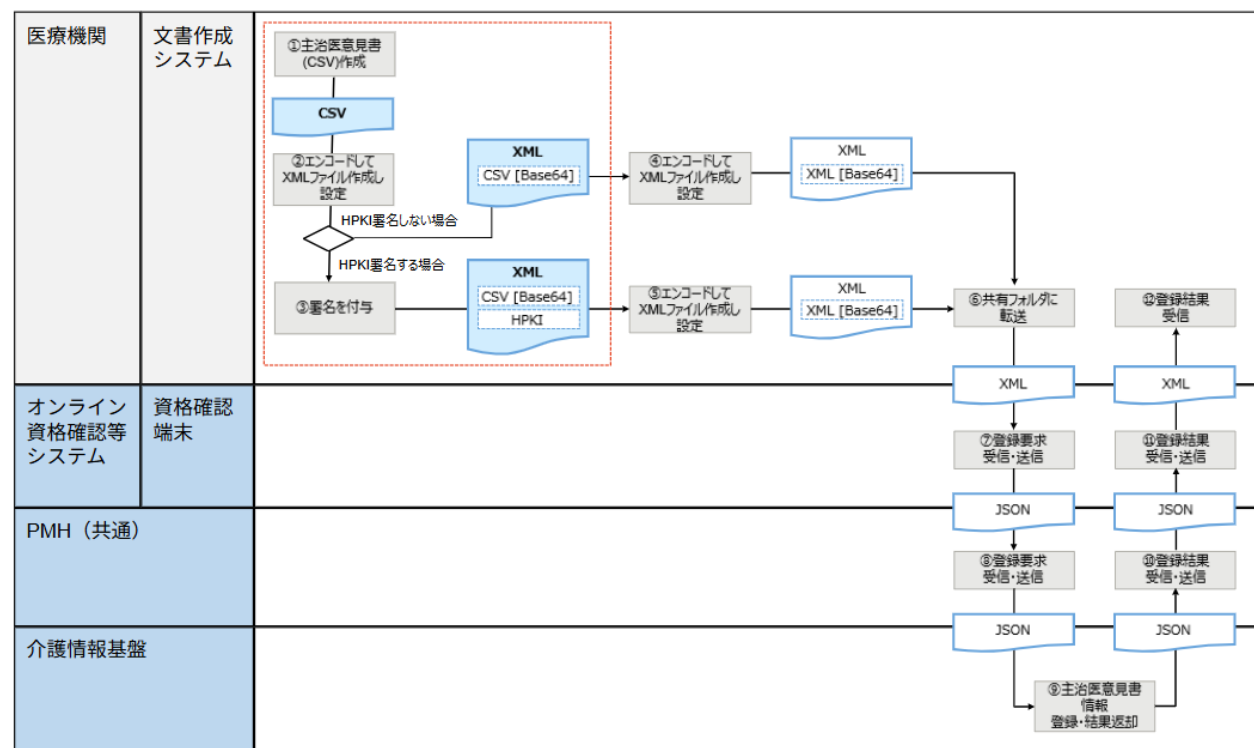


図 2-2 処理フロー（主治医意見書情報連携）

- ① 文書作成システム等で、主治医意見書情報ファイル（CSV）を作成する。
 - ② ①で作成した主治医意見書ファイル（CSV）を、Base64 でエンコードした上で、主治医意見書情報ファイル（XML）に記録する。
 - ③ HPKI 署名をする場合、②で作成した主治医意見書情報ファイル（XML）に、追加で署名を付与する。（署名の詳細については「5.HPKI 署名について」を参照）
 - ④ HPKI 署名をしない場合、②で作成した主治医意見書情報ファイル（XML）（HPKI 電子署名なし）を、Base64 でエンコードした上で、介護情報基盤向主治医意見書情報（提出用）の登録要求ファイル（XML）に記録する。
 - ⑤ HPKI 署名をする場合、③で作成された主治医意見書情報ファイル（XML）（HPKI 電子署名済み）を、Base64 でエンコードした上で、介護情報基盤向主治医意見書情報（提出用）の登録要求ファイル（XML）に記録する。
- （⑥～⑧ オンライン資格確認等システムおよび PMH※の仕様に準拠する）
- ⑨ 介護情報基盤で登録処理が行われ、PMH※に処理結果が連携される。
- （⑩～⑫ オンライン資格確認システムのおよび PMH※の仕様に準拠する）

※PMH・・・Public Medical Hub

エラーの返却時には、連携したデータが所定のフォーマットに従っているか確認し、必要があれば修正すること。所定のフォーマットで記載したうえでエラーが返却される場合には、介護情報基盤コンタクトセンターに確認を行うこと。

2.1.2 主治医意見書請求書情報の連携

主治医意見書請求書情報に関する連携の流れを「図 2-3 処理フロー（主治医意見書請求書情報連携）」に示す。本書は図中の赤枠で示す、文書作成システム等で作成する CSV ファイルの仕様について示す。

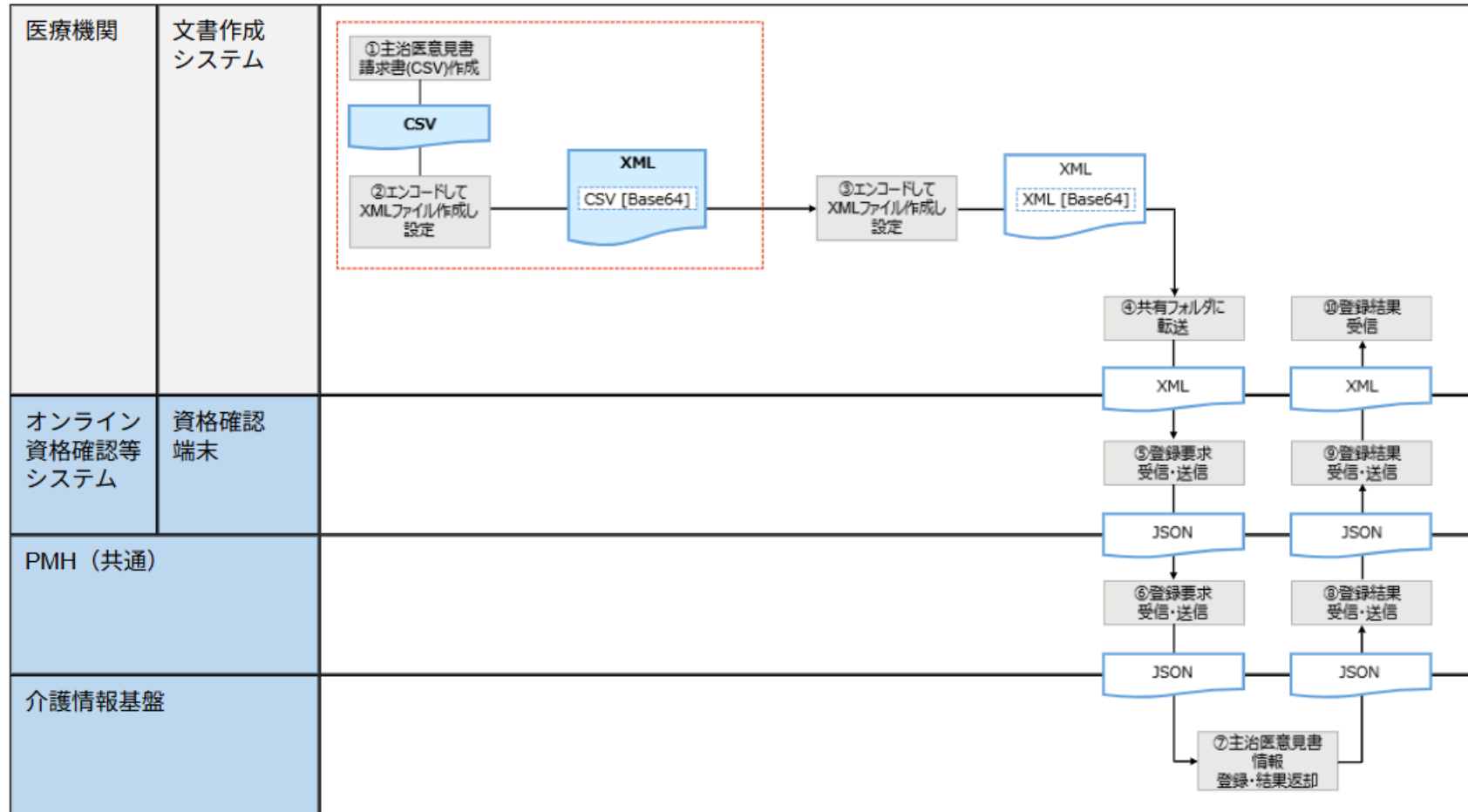


図 2-3 処理フロー（主治医意見書請求書情報連携）

- ① 文書作成システム等で主治医意見書請求書情報ファイル（CSV）を作成する。
- ② ①で作成した主治医意見書請求書情報ファイル（CSV）を、Base64 でエンコードした上で、主治医意見書請求書情報ファイル（XML）に記録する。
- ③ ②で作成した主治医意見書請求書情報ファイル（XML）を、Base64 でエンコードした上で、介護保険システム向主治医意見書請求書情報（提供用）の登録要求（XML）に記録する。
- （④～⑥ オンライン資格確認等システムおよび PMH の仕様に準拠する）
- ⑦ 介護情報基盤で登録処理が行われ、PMH に処理結果が連携される。
- （⑧～⑩ オンライン資格確認等システムおよび PMH の仕様に準拠する）

エラーの返却時には、連携したデータが所定のフォーマットに従っているか確認し、必要があれば修正すること。所定のフォーマットで記載したうえでエラーが返却される場合には、介護情報基盤コンタクトセンターに確認を行うこと。

3. インタフェース仕様

インタフェースの仕様について以下に示す。

3.1 外部インタフェース一覧

本書で使用する外部インタフェースは、「別紙 1_外部インタフェース一覧」に示す。

3.2 外部インタフェースレイアウト

各外部インタフェースのレイアウトは、「別紙 2_外部インタフェースレイアウト」に示す。

3.3 CSV ファイル仕様

- CSV 形式ファイルの各レコードは可変長レコードとし、最終レコードを含めレコードの終わりには改行コード「CRLF（16 進…0x0D0A）」を設定する。
- 区切り文字は半角カンマ「,」とする。
- 最終レコードは、改行コードのみを設定する。
- 各フィールドは二重引用符「"」の間に設定する。
※任意／条件付き必須の項目で値を設定しない場合でも、フィールドには二重引用符を設定する
- 他の CSV 形式については、CSV ファイルの(RFC4180)標準仕様に準拠すること。
- フィールド内に改行コードを含める場合は、文字列「¥r¥n」を設定する。

- 各フィールドに該当する未回答項目は、コード値の指定がない限り二重引用符[""]を設定する。

4. 文字セット・文字コード・符号化形式

要求リクエスト及びレスポンス結果の文字セット・文字コード・符号化形式について以下に示す。

4.1 要求ファイルの文字セット・文字コード・符号化形式

要求ファイルの符号化形式はオンライン資格確認等システムの仕様に準拠し、「UTF-8」とする。また、文字セット・文字コードは「地方公共団体情報システムデータ要件・連携要件標準仕様書」（デジタル庁）を基に文字セット：「JISX 0213:2012」、文字コード：「JISX 0221:2020」とする。

4.2 結果ファイルの文字セット・文字コード・符号化形式

結果ファイルの符号化形式はオンライン資格確認等システムの仕様に準拠し、「UTF-8」とする。また、文字セット・文字コードは「地方公共団体情報システムデータ要件・連携要件標準仕様書」（デジタル庁）を基に文字セット：「JISX 0213:2012」、文字コード：「JISX 0221:2020」とする。

5. HPKI 電子署名について

5.1 電子署名の規格

5.1.1 電子署名の生成

署名フォーマットは ES と呼ばれる形式（ES 署名者に関する情報と署名データを格納した形式）が含まれることを認識しておくこと。

※ 参考「JAHIS ヘルスケア PKI を利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.3.0」 「6.1 電子署名の生成（共通事項）」

5.1.2 電子署名のプロファイル仕様について

本 IF における電子署名について、それぞれ従うべきプロファイル仕様を示す。

5.1.2.1 電子署名共通の要件

- ・ 電子署名フォーマットで使用するハッシュアルゴリズムは CRYPTREC 暗号リストの電子政府推奨暗号リストに準ずる。
- ・ 電子署名の演算を行う前にデータを正規化する正規化方式としては、Exclusive XML Canonicalization 1.0 コメントなし版とする。
- ・ 本書に規定する以外の署名を付与してはならない。
- ・ 5.1.2 で規定する各署名は、複数付与してはならない。

5.1.2.2 医師等の電子署名

id 属性が“MedicalOpinionReport”である要素に対する医師等の電子署名について、電子署名フォーマットの要件は参照規格の XAdES に従う。さらに、以下の要件を追加する。

この電子署名を検証する際の XML 構造の解析を効率化するために、以下のように Signature 要素の id 属性（「MedicalOpinionReportSign」固定）を付与する。

```
<Signature Id="MedicalOpinionReportSign">
```

XAdES フォーマットのバージョンは 1.4.1 とし、以下の XML 名前空間を使用する。

<http://uri.etsi.org/01903/v1.4.1#>

KeyInfo 要素には、署名者である医師等の証明書を格納する。

「ヘルスケア PKI を利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.3.0」を参照

- ・XAdES 仕様

ETSI TS 101 903 XML Advanced Electronic Signatures (XAdES)

(<https://www.etsi.org/standards> から入手可能。)

- ・XML 署名仕様

XML-Signature Syntax and Processing W3C Recommendation 11 April 2013

注記 <https://www.w3.org/TR/xmlsig-core/>から入手可能。

5.2 XAdES に関する規格

「JAHIS ヘルスケア PKI を利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.3.0」「6.4 XAdES に関する規格」の項を参照。

6. 障害時・異常時の対処

障害・異常発生時について、それぞれの対処方法を以下のとおり示す。

- ・ データを送付したが結果が返却されない場合、再度データ送信を行うこと。
- ・ 入力データが正常でない（形式不備）場合、「形式エラー」としてエラーが返却されるため、エラーの内容をもとにファイルを作成しなおし、再送信すること。
- ・ 業務を正常に遂行できないうえ、エラー等も返却されない等、対処法が分からない場合、介護情報基盤コンタクトセンターに連絡し、指示を仰ぐ。

なお、同一キー（証記載介護保険者番号、介護保険被保険者番号、作成依頼日）のデータが送信された（介護情報基盤で当該データが既に登録済み）の場合、登録済みデータが削除され、後の回で送信されたデータが上書き登録される。

（データを差し替える際は同一キーで送信することにより対応する）

7. 連携要件と方式

7.1 ネットワーク経路

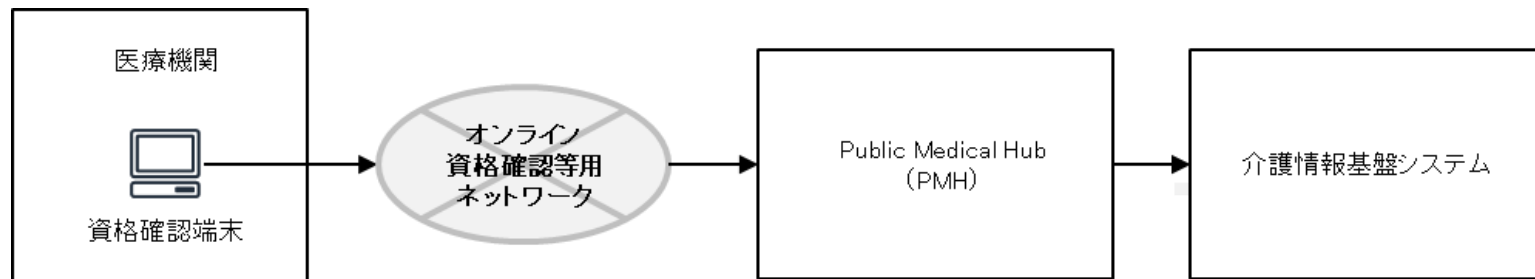
医療機関の資格確認端末と介護情報基盤間のネットワーク経路について以下に示す。

医療機関の資格確認端末はオンライン資格確認等用ネットワークを経由して Public Medical Hub（PMH）で通信の振分をされて介護情報基盤へ接続を行う。

介護情報基盤への通信においては、HTTPS により通信の暗号化を行う。

ネットワークの全体構成を「図 7.1-1 ネットワーク経路」に示す。

図 7.1-1 ネットワーク経路



7.2 検証環境

介護情報基盤との接続検証を行う際は介護情報基盤が提供する接続検証環境を使用して検証を行う。

接続検証環境との接続方式についてはオンライン資格確認等用ネットワークを経由して Public Medical Hub（PMH）の検証環境で通信を振り分け、接続検証環境用の URL へ接続を行う。

8. WebAPI 仕様

8.1 API 共通仕様

介護情報基盤の API は、REST（Representational State Transfer）形式で提供され、リクエスト・レスポンスともに JSON 形式を採用している。認証・認可は PMH で行われる為、介護情報基盤では行わないこととする。すべてのリクエストは HTTPS 経由で行われる。

レスポンスステータスコードは標準的な HTTP ステータスコードに準拠し、エラー発生時にはステータスコードに準拠したメッセージを返却する。エラー発生時に使用する HTTP ステータスコードは、200 番（入力チェックエラー）、400 番台（クライアントエラー）と 500 番台（システムエラー）を使用し返却する。

※介護情報基盤は、200 番で正常レスポンス、または入力チェックエラーレスポンスを返却する。

8.2 呼出し手順

本 API は、PMH を介して呼び出されるため、クライアント側は介護情報基盤の具体的な実装や動作を意識する必要はない。PMH が提供するインタフェースおよび仕様に準拠しリクエストを行う。

8.3 共通処理

介護情報基盤では、以下の共通処理が全 API リクエストに対して適応される。

- ・ 入力値検証：リクエストパラメータの妥当性検証を行い、不正な値が含まれている場合はエラーオブジェクトを返却する。
- ・ ロギング処理：セキュリティ監視およびトラブルシューティングのため、リクエスト・レスポンスの内容をログに記録する。
- ・ エラーハンドリング：発生したエラーを適切に捕捉し、エラーに対応するメッセージを返却する。

8.4 使用上の制限

連携データの不整合等が発生する可能性があるため、マルチスレッド/マルチプロセスによる多重起動を禁止する。